

一般質問「町政に問う」



春日 隆司 議員

一問一答方式
質問時間 1時間

平成28年度予算編成方針について

質問 協働のまちづくり、町民参加がはつきりと方針に書き示されていないのはなぜか。

町長 わかりやすい情報の提供と共有を進めるとともに、町民の行政への参加を推進していく。

質問 人口減少・少子化対策について、はつきり方針が示されていないのはなぜか。

町長 人口規模が持続する地域を創る、これを推進するための予算を編成した。少子化対策は、総合的かつ横断的な観点で推進していく。

質問 来年3月末の人口は、

どの位を目標にしているか。

町長 平成28年度末では3,382人と推計。

質問 町政始まって以来の当初予算を組むのはなぜか。徹底した経費節減が行われた予算か。経費削減額はどのくらいか。自主財源の確保をどう考えているか。

町長 行政運営の継続性を保ちつつ、現在または将来の町にとって必要な予算を計上した。廃止、削減、縮小を行うよう指示し、予備バスや納税貯蓄組合連合会交付金などを廃止した。企業版ふるさと納税制度を最大限活用していきたい。

質問 「幸せ日本一」の具体的なイメージは。なぜ、日本一でなければならぬか。

町長 住んで良かった、住み続けたいという町民の声が多いということではないか。

質問 経済、資源、暮らし、情報、人材の循環はどのよう

なことが循環されるのか。具体的な例と効果の発現は。

町長 森林バイオマスの利用拡大により、地域外に流出している電気、熱源などの購入費用を内部化し、地域内に循環させていく「経済の循環」など、これら5つの領域の好循環化を図っていくことで、人口規模が持続する地域と幸せ日本一の地域の実現に繋がっていく。

質問 仕組みを大きく変える行政改革、組織改革をどのように進めるか。28年度の推進体制は。

町長 持続可能な行政運営を推進していきたい。グループ制の検証や執行体制の見直しが必要な時期にきている。平成28年度に柔軟性と機動力に富んだ推進体制を検討していく。

再質問 事業費が倍ぐらになる計画変更に対して町民に説明はしない。一事業の計画変更の説明をすれば、全部の計画変更を町民に説明しな

ければならないとの考えは今も変わっていないか。議会から付されている意見をどう認識しているか。

町長 事業費の計画変更説明は今後ルールづくりをしていきたい。議会意見は、重く受け止めさせていただいている。それをできるだけ反映できるようにしていきたい。

再質問 地方創生が言われている中で、地方創生を深く進めるということが下川町においても重要ではないか。転出者より転入者を増やすことは政策でできるのではないか。

町長 今は地方創生の旗印の下に、小規模町村は特に総合戦略に力を入れていろいろと策定をし、今後それを実施しようとしている。転入者を増やしていく上では、仕事をつくっていくというのが第一条件。それにあわせて住宅整備が必要である。外から来る人たちの受け入れをしっかりと受け止められるような整備を進めていく。

再質問 合併議論があつて、その後数年間、緊縮財政の時があつた。今、借金して3年位掘返済猶子があり、その後4年位から借金を返していかなければならないが、町の財

源に実行性をもつて、実践をさせていただきたい。町の今の財政状況をどう認識しているか。

町長 今回の予算では基金を相当取り崩して、そして事業費に充てている。過去にもこういう時代があつた。政策投資をしながら町の活性化を図っていくということが必要。特に今回は、提案している宿泊交流施設というのが大規模化され、一般会計の中で相当額充当していかなければならないということ、基金等の取り崩しも行う。こういう積み重ねが中長期で行われていくことによって、政策的な反映がされていく。毎年同規模で財源を取り崩していくと、町自体の命が危ないことになってしまう。しっかりとバランスを図りながら今後も運営していきたい。

再質問 合併議論があつて、その後数年間、緊縮財政の時があつた。今、借金して3年位掘返済猶子があり、その後4年位から借金を返していかなければならないが、町の財